

真田坂

●特集

街ってなに？－上田の商店街と薬局－

●愛に生きた女優 "松井須磨子" と松尾町

●街歩きエッセイ

●真田坂サロンから



街つてなに？ — 上田の商店街と薬局 —

商店街に薬局が多い理由

上田の商店街って薬局が多いと思いませんか？今回、真田坂フリーペーパー部はこの疑問を説明すべく松尾町にある薬局さんに取材に行ってきました。

はじめに、やまぎわ薬局さんに伺いました。取材に応じていただけたのは、大先生こと山極勝夫さんです。さつそく「何で上田の商店街には薬局さん



左から山極規恭さん、克美さん、勝夫さん

がいつぱいあるんですか？松尾町の場合は上田病院さんがあるからですか？」と伺ったところ、「わからないね」と一刀両断！「ウチの場合は、たまたまここに土地、建物があったから」との答えに、我われ取材班は「これじゃ記事にならねえよ！（涙）」と焦りました

が、それでも何か、とお願いしたところ「1948年（昭和23年）の薬事法改正で距離制限規定が施行される前に、とりあえず街の中に店を出しておこうと思ったのかもね」との答え。因みに、この距離制限規定は1975年（昭和50年）に、憲法22条1項（職業選択の自由）に反する（最高裁判例昭和50年4月30日）として違憲判決が言い渡され現在、距離制限はありません。それでもと

食い下がったところ、創業当時の松尾町の話をお聞きすることができました。「昭和33年の創業当時、上田の商店街では原町が一番すごかった。松尾町は上田駅と原町とをつなぐ道で人通りがある程度あった。松尾町で店を出すとき、坂のある商店街は栄えたためしが無

まり儲からなかったから、同業者から週刊誌を売っているほうが儲かると言われていたよ。今は、逆に職人（資格者）がいいと言われるが、結果であってこの先はわからないよね」「申し訳ないけど、結論としてどうして商店街に薬局が沢山あるのかははっきりわからないね（笑）」

ヒントは〇〇〇〇 薬局がふえていった理由

続いて、取材班は藤岡薬局さんに伺いました。藤岡薬局さんは松尾町で最も歴史のある薬局で創業90年以上の老舗です。取材に応じていただいたのは、4代目になる藤岡幸司さん。「理由？昔は郊外に薬局がなかったからじゃない。病院や診療所も回りに沢山あったし。普通は、郊外が栄えると街中の店舗を辞める業種が多いけど、薬局は残ったんじゃない。まあ、考えられるとしたら、特に上田は医薬分業の歴史が古いからじゃないんですかね」との答え。因みに、病院・診療所で直接薬をもらうこと



上原薬局



イケダ薬局



やまぎわ薬局



藤岡薬局





藤岡幸司さん

は院内処方と呼ばれ、薬ではなく処方箋をもらうことは院外処方と呼ばれる。この

院外処方が「医」と「薬」を分けているため医薬分業という言葉が使われています。

結局、藤岡薬局さんではこれ以上取材できなかったため、続いて上原薬局さんに取材に伺いました。取材に応じていただいたのは、松尾町自治会長の上原剛さんです。「理由はわからないけど、確かに上田は薬局が増えたなあ。私が昭和50年に帰つて来た時は、上小地域合わせても30店舗位で、今は上小地域で80軒以上あるんです。増えた理由として、



上原剛さん(右)、春美さん

しては、医薬分業の歴史があるということでしょうか。その歴史は、紀

元前の時代から王様の暗殺、毒殺を防ぐために始められた「そうす」です。「薬剤師の大きな意義は薬の正誤を確認すること。ということ！疑義のある薬をそのまま処方された場合には、薬剤師はこれを止めることが出来るし、止めなければならぬ。判例でも薬剤師に責任がある」とされています。

最後に、今年で創業75年のイケダ薬局さんに取材に行きました。取材に応じていただいたのは、村上肇・圭子ご夫妻です。「昭和40年位から全国的に一気に薬局が増えた気がしますね。理由としては、昭和29年の医薬分業法案（医師法、歯科医師法及び薬事法一部改正・昭和30年1月実施）によって院内処方より、処方箋を出す院外処方の方が点数が有利になったことが大きいと思います。また、200mの距離制限があったことも関係するかもしれませんね。今年4月の薬事法改正で登録販売者と名前は変わりましたが、薬種商のお店の子供が昭和40年位から薬剤師の資格に切り替え始めたのも理由の一つだと思います」

※薬種商とは、都道府県知事が行う薬種商販売業認定試験に合格したもので（現在は、登録販売者認定試験）、医



村上肇さん(左)、圭子さん

剤師との大きな違いは、販売できる医薬品は限定されていて、薬剤師のように処方箋を調剤することはできず、薬剤師がいない場合「薬局」とは称することはできないので、「薬店」と称することが多い。

結局わかりませんでした(スマイセン)。でも・・・

結局、推測ですが上田の商店街が発展していったと同時に薬局さんも増えていった、集まってきた。という事だと思っています。距離制限や医薬分業（保険の点数が上がった）、薬種商から薬剤師への転換ということ、全国的に薬局が増えた理由だと思います。

ただ、これだけの狭い地域に薬局が集中しているということは、歴史がある商店街ということが言えるのではないのでしょうか。例えば、距離

制限一つにとってみても、これが施行される前からあったということでしょうし、「上田は医薬分業の歴史が古くからある」という意見もこれを裏付けるものだと思います。

**街ってなに？
街の歴史を感じて物事の背景を考えてみる**

今回の薬局さんの取材でお気づきになられた読者の方が多いとは思いますが、商店街に集まる一定の業種、さらに言えば、一定の業種だけでなく一つ一つのお店には一つ一つの歴史があります。さらに言えば、全ての物事には、表には見えていない背景というものがあります。そういった背景というものを考えながら、「随所に歴史を感じる街、松尾町」を歩いてみていいんじゃないでしょうか。 (>)<

文＝ドラいもん、写真＝平林敏夫



「あの松井須磨子が松尾町に住んでいた」といつても「どの?」と言われてしまいそうですが。日本の演劇史、女性史を飾る松井須磨子が真田坂を歩いていたのです。

彼女の生きた大正という時代は、現代に繋がる新しい文化が開花した時代でした。上田も「蚕都上田」の豊かな経済力を背景に、地方の一都市とは思えない文化が息づいていました。それらは「農民美術」「自由画運動」「上田自由大学」などに代表される、民衆を

主体とするリベラルな動きであり、上田は新しい時代の先端にありました。

そんな上田の躍動を松井須磨子、彼女の歌う「カチューシャの唄」の作曲を始め今なお歌い継がれる数多くの唱歌を作曲した中山晋平の二人と上田の洋楽文化を中心に、上田マルチメディア情報センター初代所長、北條彰一氏にお話を伺いました。

大正ロマンに思いを馳せながら「真田坂」を歩いてみて下さい。

『上田に花開いた洋楽文化』

上田のジンタと中山晋平・松井須磨子の活躍

文・北條彰一

日本初の新劇女優「松井須磨子」の誕生

松井須磨子（小林正子）は明治十九年十一月、松代清野の旧家小林家（父小林藤太）の、四男五女の末っ子に生まれました。六歳の時、父の妹の嫁ぎ先である上田の長谷川家（養父長谷川友助）の養女となり、明治三十四年十五歳で上田女子尋常高等小学校を優等で卒業しました。しかしこの年、養父が死去し、また養母も夫の死後の身の振り方の問題もあり、養子縁組を

解消し実家に戻りました。十年間の多感な少女時代を、上田で過ごした須磨子は、どの様な思い出を胸に清野に帰っていったのでしょうか。彼女が唯一書き残した「牡丹刷毛」（大

正三年七月十日発行新潮社）という本が遺されていますが、小学校時代の思い出を、小説風に綴っているものが残っています。このころの上田は「蚕都」として賑わった時代です。



松井須磨子

須磨子が上田に来た少し前、信越線が開通し上田駅ができ、松尾町の通りができました。須磨子が養子に入った長谷川家は、この松尾町に洋品店を開業していたということです。

須磨子の通っていた小学校では、このころ上田出身の松平志津馬先生が、クラリネットで「唱歌」の授業を行っており、須磨子も多分、この授業を受けていたと思います。

また、上田には明治二十九年に鄙にはまれな立派な吹奏音楽隊「上田音楽隊」が結成されており、松平先生の指揮でハイカラな洋楽を颯爽と演奏しながら、上田の街を行進していました。この「上田音楽隊」は

明治初期に外国から導入された、軍隊の流れを汲むもので、吹奏楽器と太鼓で編成された音楽隊です。明治二十年代に入ると東京では、民間の音楽隊が創立されますが、洋楽教育の進んだ上田では、明治二十九年に編成されました。これは上田房山

で古くから醸造業を営んできた「酒富」の柳澤憲一郎さんから、筆者に提示された褪色した写真を、デジタル化して復元しその存在を確認したものです。楽隊の指揮者は松平志津馬という、当時二十歳の青年でリーダー役を務め、明治、大正、昭和初期まで、上田近辺の小学校の音楽教

諭で活躍した、上田の洋楽教育に大きな貢献をされた先生です。

松平先生は明治九年に上田の資産家町田家に生まれ、少年のころからクラリネットを巧みに吹く、音楽好きの少年でした。彼は十八歳のとき、上田の松平家に養子入籍をしました。故松平忠久氏（元衆議院議員）は志津馬先生のご長男で、やはり音楽好きで青年時代には、コルネットを吹いていたということです。

このように商売の賑わいと町文化の豊かさを持つ「蚕都」上田の街で、須磨子は幼いながらも文明開化の雰囲気、しっかりと身につけ、やがて日本初の新劇女優の道へ、進むことを決心したのです。

日本には古くから「歌舞伎」という優れた演劇がありますが、明治の

末期になると、西欧先進国から、近代の思潮に彩られた戯曲が入ってきます。トルストイ原作「復活」、イ

プセン原作「人形の家」など翻訳劇が上演されるようになります。これは「歌舞伎（旧劇）」に対して「新劇」として芸術志向的演劇を目指す動きでした。坪内逍遙・島村抱月が「文芸協会」（明治三十八年創立）を、小山内薫・市川左團次は「自由劇場」を結成しています。

松井須磨子が新劇女優になることを志して、明治四十二年、文芸協会演劇研究所に入所。四十三年三月、演劇研究所第一回試演会「ハムレット」に、オフェリア役でデビューし成功を収めました。四十五年ごろから須磨子と抱月は、熱烈な恋愛関係に落ちます。二人の恋は社会的に大



上田を訪れた松井須磨子
大正4年7月、上田市中村座公演前、旅館観水での記念撮影。向かって須磨子の左側が浅井医師、二列目中央に島村抱月。

きな反響を巻き起こし、逍遙は文芸協会規範に違反したとして、須磨子を「論旨退会」処分としましたが、抱月も協会を辞任し早稲田大学教授の地位も捨てました。

大正二年二

月、抱月と須

磨子は、新劇

の確立を目

指して、新

しい劇団

「芸術座」を設立

し活動を始めました。公演は噂の

渦中の須磨子の演技を見ようと、大

入り満員であつたのですが、興行の

運営、劇団員の統括などの不安定さ

が目立ち、抱月は苦境に立たされま

す。そして大正三年一月、抱月は満

を持して芸術座第三回公演として、

トルストイの大作「復活」を上演し

ました。抱月はこの劇のヒロイン（カ

チューシャ）を演ずる須磨子に、ヒ

ロインの想いを歌わせるといふ新し

い趣向「劇中歌」を取り入れ、大向

こうをうらなせたのです。

「カチューシャ可愛いや別れのつ

らさ・・・」という「カチューシャ

の唄」とともに、須磨子の演ずる「復

活」は大評判となり、大正三年から

七年までの上演回数は、四百四十四

回を数えたといえます。続いて大正四年四月に上演されたツルゲーネフの戯曲「その前夜」で歌われた「ゴンドラの唄」も大ヒットとなり、抱月、須磨子、そして芸術座の存在は全国に喧伝されて



絵：竹久夢二

いったので

須磨子の郷里長野県でも、大正三年五月の長野市三幸座を皮切りに、公演が数多く行われ、大正四年七月五日六日には、上田町の中村座でも公演が行われています。

作曲家「中山晋平」と 松井須磨子の出会い

中山晋平は須磨子が生まれた翌年の明治二十年、松代からそう遠くない日野村（現中野市新野）に生まれました。明治三十三年五月、上田音楽隊は下高井高等小学校で開催された、赤十字の地方部会に招かれて演

奏をしました。

『赤いズボンに金モールの飾りのついた上着を着たきらびやかな服装や、吹き鳴らす勇壮活発な「敵は幾万」や「あなうれし」などのメロデイはどんなに私の音楽に対する憧憬心を沸き立たせたことか！子供心にすっかり感激した私は、一生音楽の方面へ進もうと決心の臍を固めたのもこのジンタを聞いてからのことであつた』『中山晋平自譜』（昭和十年八月）より

中山晋平はこの時、高等小学校の二年生でした。晋平は日野村の旧家に生まれましたが、父が早くに亡くなつたため、家の経済状況は逼迫しており、とても東京の音楽学校に、進学できる状況ではありませんでした。高等小学校を卒業して代用教員の資格をとり、地域の小学校に勤務していました。しかし明治三十八年

親戚の人を介して、島村抱月の書生の働き口が紹介されました。こうして音楽への道が開かれましたが、書生の仕事、音楽学校入学の準備と、大変な苦勞を乗り越え、明治四十一年、念願の東京音楽学校ピアノ科に（現東京藝術大学）に入學し、四十五年、音楽学校を卒業し、浅草の千束尋常小学校の音楽専任教諭となりました。そして大正三年一

月、抱月は「復活」の劇中歌「カチューシャの唄」の作曲を、晋平に依頼しました。抱月のこの唄に対する想いは非常に高く、晋平は作曲に苦勞しましたが、須磨子の演技力と晋平の作曲の力量は、抱月の主催する芸術座の名声を、さらに高めることになりました。

書生時代に抱月の薫陶を受けた晋平は、抱月の「中山君、大衆なくしては、芸術は存在しないんだよ」ということを胸に、大正から昭和の時代に信州の誇る大作曲家となつたのです。

抱月、須磨子そして晋平の三人が東京で出会い、大正の

ロマンの時代を彩る存在になつたことは、全くの偶然の出来事であつたのでしょうか。私はそこに上田を軸として、明治十年代後半の「洋楽事始め」に敏感に反応した先人達の音楽教育の成果が、この山国信州から須磨子、晋平という、時代に先駆けた文化人を、輩出することに繋がつたと思っています。



「鳥衣巷に思う」

文・松尾翁

12

先日、NHKのテレビを見ていたら、中国・南京市、鳥衣の港の風景が映っていた。

ふと想い出した、唐の時代の詩人、劉禹錫の漢詩に

朱雀橋辺野草花
鳥衣巷口夕陽斜
旧時王謝堂前燕
飛入尋常百姓家

むかしは、朱雀

橋付近に王氏・謝

氏と言う大富豪の

家があり、燕は大

富豪の家に巣を

作っていたが、衰

退し今は、ありふ

れた庶民の家の軒

に巣を作っている

と言う、何時の時



「土」のビルも今年5月に取壊された。次に、何が出来るか、何が、上田の中心商店街再生の切札となるか、又、「ほていや」の様なビルになるのか、上田市も商店街も市民も一緒に「街」について考えないと、自分たちの子供、孫に先人が作ってくれた上田を残すことが、出来ないのではと、考えてしまう。

どこの地方都市も金太郎飴の様に同じ街、近代化された、便利な街が、決して良いとは限らない。不便

でも、人間らしい街なら良いのではないか！ 便利性

を追い求めて、郊外・郊外と街が大きくなるが、高齢

者時代になり、逆に、買物に行けなくなり、人に頼

らなくては、生活できない時代に成ってきているように思える。せ

めて、息子・娘・嫁に気兼ねなく、生活できる街を取り戻したいものである。

真田坂サロンがオープンしました



「真田坂サロン」は松尾町商店街が企画運営するサロンです。6月に新聞公募し、また協力をお願いした方々にご参加いただき、様々な方面からのお話を伺い、語り合うサロンです。私共のフリーペーパー「真田坂」では、「街ってなに」をテーマのひとつとしてきました。街の役割は何なのか、人々が集まる街にするにはどうしたらよいのか、などを考える中で切り離す事ができないのが、私達の「暮らし」です。暮らしの在り方によって街は変わっていき、街の在りようが暮らしを支えていく。サロンでは、私達の暮らしを培ってきた上田の文化・歴史や今の姿などを、色んな角度から見つめていきたいと思ひます。

サロンと呼ぶのは、肩肘を張らず、気楽で自由な語らいの場にしようと思ひからです。公聴は自由です。各回の日程、内容は「真田坂Web」でお知らせ致します。サロンでのお話は、「真田坂」にも掲載していきたいと思ひます。どうぞ、お気軽にお出かけ下さい。

職人フェア出店募集のお知らせ

本年度も真田坂松尾町商店振興組合では、11月13日(木)～15日(土)に職人フェアを行います。

※開催希望者がある場合は、16日(日)に追加開催します。



職人フェアは、専門店街としての知識や技術を、篆刻やパッチワーク、料理などの各種教室、各店舗でのイベントなどにより、お客様によるこんでいただくというものです。松尾町商店街以外からも農家の方や専門業者の方に協力を得て物産市を開催します。なお、今回の松尾町職人フェアでは、多くの皆さんに参加していただきたいと思ひ、教室、展示、物産市と一緒に出したい方を募集いたしますので、お気軽にご連絡下さい。物産市用のテント、教室用の場所は、松尾町でご用意いたします。開催内容によってはお断りする場合がございます。

連絡先：090-7253-0232 (担当 町田) F A X : 0268-21-1100

出店申込締切：10月1日

スペシャルティコーヒーについて

日本の食文化を代表するお米などの食品は以前から産地や品種を明確にして個性を育て発展してきました。しかし、これまで世界中で流通してきた多くのコーヒーは、産地や品種の異なるものが混ざられた、その国の輸出規格が取引の基本となっていました。例えば、ガテマラ SHB, HB は産地の標高を基準にしたガテマラの輸出規格です。コロンビアではコーヒー豆のサイズでスプレモ (SP) とエクセルソ (EX) に分類され、豆のサイズまでしか分からなかったわけです。香味に関する客観的な基準や品質基準が欠けていました。詳細な産地、農園や品種の特定が出来ず、味そのものの良さを裏付ける消費国としての基準がありませんでした。

2000 年以降、世界各地で「品質の良いコーヒー」「もっとおいしいコーヒー」を求める意欲的なロースター達が現れ、品質と味を重視した取り組みを積極的に進めました。スーパーマーケットや小売店に流通する低価格のコーヒーとの差別化です。お馴染みのスターバックスもその一つです。

農園や品種を指定したり精製や選別を指定したりして、より明確な豆の個性を求めたことで、これまでとは違う香味の発見が始まりました。

そして、このような評価基準が SCAA (アメリカスペシャル

ティコーヒー協会) を中心として整備され、世界中に普及してきました。

当店が参加しております LCF グループは、日本における「スペシャルティコーヒー」の先駆的存在です。

味や品質について当店の扱うスペシャルティコーヒーには明確な基準 (SCAA 基準) があります。そこが単に高級というイメージのプレミアムとの違いです。スペシャルティコーヒーは特別な時に飲む高級品ではなく、質の高い、「普段使いのコーヒー」です。そして、生産地の自然保護やそこで働く人々の生活まで含めた環境を整備し、その維持継続に力を注ぐ。それがスペシャルティコーヒーの理念でもあります。

味わいは上田で生まれる

ローストはコーヒーの味わいを決める大事な工程の一つです。味と品質の確かな素材を注意深くローストしてお届けします。喫茶だけではなく、毎日ご家庭で飲んでいただきたいコーヒーです。

現在お飲みのコーヒーに満足できない方はもちろん、今のコーヒーが最高だというコーヒー好きの方も是非一度お出かけ下さい。最新のコーヒー情報とともに、新たな香味体験のチャンスです。また、抽出や器具に関するご相談もお気軽にどうぞ。

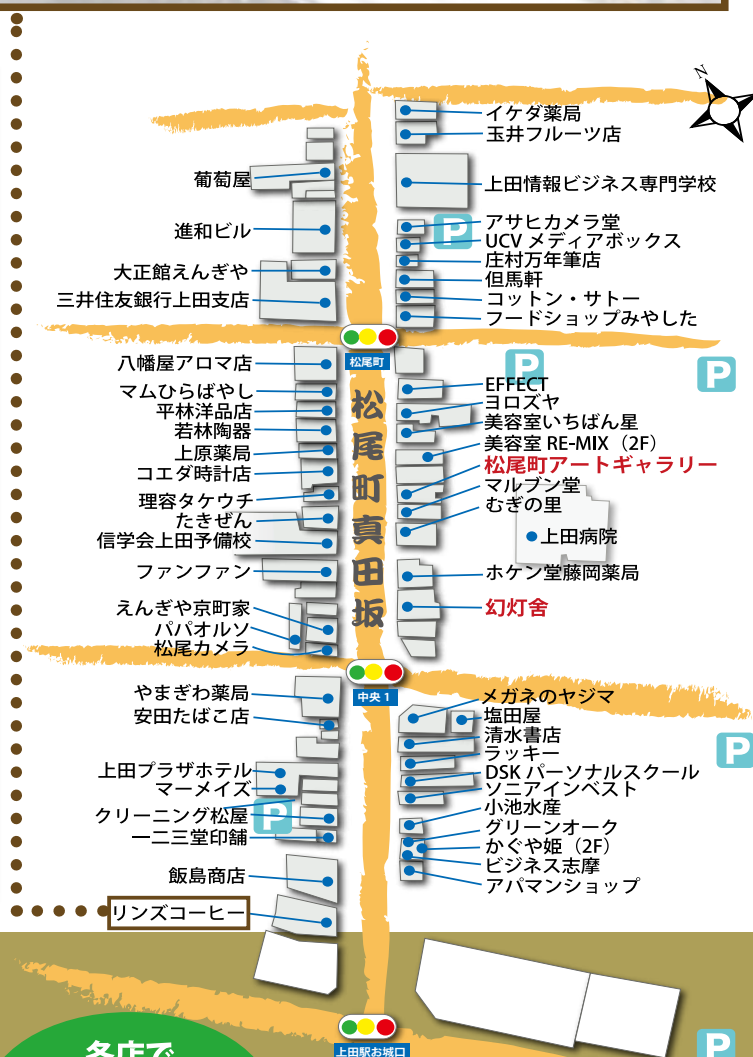
編集後記

お待たせしました。
真田坂 13号をお届けいたします。
今回、ご投稿いただいた皆様方
および関係者の皆様方には、
たいへんお世話になりました。
この場をおかりして、厚く御礼
申し上げます。
今後とも、よろしくお願いいたします。

(編集長)



志摩充彦



各店で
上田市共通駐車券を
差し上げています

JR 上田駅